

第3回 学校関係者評価委員会 意見交換より

1 実施日 令和2年 2月21日(火) 午後7時より

2 会場 校長室

3 参加者 学校関係者評価委員 保坂 昌志(寺部区自治会長)
北村 敏 (スクールガードリーダー 元教員)
松田 結香(主任児童委員)
金子 伸二(保護者代表・PTA会長)
中山 順子(保護者代表・PTA副会長)

学校側 河西 美代司(校長) 望月 政幸(教頭) 石川 明子(教頭)

4 学校側から提案された内容

- ・後期の学校評価(教職員自己評価・児童アンケート・保護者アンケート)についての解説や考察を教頭より説明をした。

5 協議された主な内容

- ・学校側からの説明を受け、意見交換を行った。
○……委員からの意見・感想 ☆……学校の考え

(1) 携帯のルール作りについて

- 「Tik Tok」などで顔を映してネットにアップしている実態があり心配。
- 家庭での会話を増やす意識が必要ではないか。
- 子供にばかりいうのではなく、親(大人)が家の中で携帯を使用する頻度を減らし、その姿を見せていくことも必要である。
- 犯罪へ巻き込まれる危険性を考えると、ネットの中で会話するのではなく、家庭の中での会話を増やし、相談できる状態を作っていくことが必要である。
- 買い与える前に、わが子自身に家庭で作ったルールが守れるのか、自分をコントロールできる力があるか考えさせることも必要。
- ☆ヘルメットの着用とともにゲーム・スマホのルール作りの向上も図ってきたが、なかなか100%にならない。ルール作りが親からの一方的な押し付けにならず、児童とともに話し合えるよう、記入の方法など工夫を行っていく。
- ☆悩みを相談したくてもできない児童がいることにも着目して、家のスマホやゲームの使用に関するルール作りを含め、今後も保護者への啓発を行っていく。
- ☆第5学年の授業参観において、親と子が一緒にネット等について学ぶ機会を作っていく。
- ☆親が友達の親を巻き込める関係であれば、携帯を持たせる時期やルールづくり等がスムーズにいくこ

とがある。

(2) 生徒指導について

- 外へ出る機会が少なく、外で子供の姿を見かけなくなっている。
夏の親子作業のように、学校での行事でもあれば親子で出かける機会となるのだが。
- 春先はあいさつに元気があり、ヘルメットを着用している子を多く見かけるが、だんだん元気がなくなっているように感じる。
- 学年後半になると、信号で止まらないなどルールを守らない姿を見かけるようになる。
- 道の縁石に乗りながら歩くので危ないが、児童自体どのような危険があるかイメージができないのだろうか。
- 下校時に地域の誰とも合わずにいることがある。
- 「こども110番の家」があっても、よその人の家に入ることや活用の仕方を我が子がわかっていない。他の子もわかっていないのではないか。
- ☆「いやだと感じたらいじめである」と認知し、解消に向けて取り組んでいる。
- ☆子供のコミュニケーション能力に低さがみられる中、聴く・伝えるといった基本的なことを継続して指導していくことを通して、相手を大切にできる児童の育成につなげている。
- ☆「子供110番の家」について、地域で100軒を超える家庭が参加してくださっているので、児童にその意味や活用方法を知らせていく必要がある。

5 その他(1年間のまとめも含む)

- スマホ等による事件へ巻き込まれないようにするためには、まず親の姿勢が大切だと思う。そのために、家庭内での会話を増やしていきたいと思う。役員をすることで、この1年間で自分自身の考え方が大きく変わったことを実感する。いい経験ができた。
- 例えば地域の温かい見守りがあることなど、一保護者だったらわからなかったことも、いろいろ知る機会があり勉強になった。
- 「こども110番の家」に協力しているが、子供がその活用方法を知らないので、教えてほしい。
- 若草小の児童は元気なあいさつをしている。先にしてくれることは少ないが、こちらからすると元気に返してくれる。素直ないい子が多い。
- 朝地域に立って見守りを行ってきた。その中で子供から元気をもらった。見守りたすきがみるみる増えていってうれしい。
- 学校日より等リアルタイムで読みたい内容である。
- 様々な問題が作られてきている(不登校・学級崩壊・いじめ等)中で、「ふるさと若草を愛する子供」を育ててほしい。道徳等の活用の実践がある。教師と児童との信頼関係(児童が先生を好きである)の中で教育がなされ、効果を上げていく。
ふるさとが好きであるからこそ、役に立ちたいという気持ちが育まれていく。学力向上も大切であるが、そのような教育を実践してほしい。